

じん だ い

第51号

発行：医療法人社団 欣助会 吉祥寺病院



2018.1.29 (月)

調布市深大寺北町4-17-1 ☎042-482-9151

URL www.kichijoji-hospital.com

基本理念

患者様やご家族の側に立った医療
患者様の社会復帰を目指す医療
全職員相互の力を発揮できる医療



院内 冬彩り (左上：水仙 右上：山茶花 左下：シクラメン 右下：冬桜 中央：万両)

Contents

新年のご挨拶.....	1
新年のご挨拶.....	2
本年のご挨拶にかえて.....	3
深大寺道をゆく ～その⑥～	4
学会発表の感想.....	7
平成29年度病院忘年会について	10
永年勤続優良職員表彰.....	10
新人紹介コーナー/ 行事予定	11
当院のおすすめメニュー.....	12
外来担当表 / 当院略図 / 編集後記	15

昨年も世界情勢が大きく動いた1年でした。

昨年1月に公職経験が全くないトランプ氏が第45代米大統領に就任して以降、世界の不安定さに拍車がかかっているようです。

アメリカは6月に地域温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」から離脱し、10月には国連教育・科学・文化機関「ユネスコ」からも離脱を表明しました。12月にはイスラエルの首都をエルサレムと一方的に認めることで、イスラエルとパレスチナの関係が悪化しています。

隣国韓国では3月に朴大統領が罷免され、5月に文在寅氏が大統領に就任しました。しかし、日本とは慰安婦問題の恒久的解決を国として約束したにもかかわらず、全く守る様子がなく、相変わらず関係悪化は続いています。また、朴大統領時代は中国とは蜜月関係にありましたが、ミサイル防衛システムを導入して以降一気に関係が冷え込んでおり、北朝鮮との関係においてもアメリカの圧力で右往左往している印象です。

北朝鮮は、核実験・弾道ミサイルの発射を繰り返し確実に核保有国になるための道をひた走っています。

中国は10月の中国共産党大会で習近平政権2期目が決定し、今後巨大経済圏構想「一帯一路」や南海沖への侵出も力強く押し進めていくと思われます。

アメリカ・ソ連の冷戦時代の後アメリカ一強の時代が続きましたが、ここにきて勢力図が大きくかわろうとしています。

国内に目を移しますと、昨年7月の議員選挙では自民党が惨敗し、都民ファーストの会が都議会で第1党となりました。しかし、10月の衆議院選挙では逆に自民党が284議席を獲得し圧勝しました。自民党が国民に支持されたというより、民進党の分裂や都民ファーストの会の小池百合子氏の「排除する」等の発言に助けられ、行き場のない票が自民党に流れ圧勝したように感じます。それでも以前のように1年に1度ずつ総理がかわっていた時と比べ、外交問題も含め随分安定してきています。

今年は6年に1度の診療報酬・介護報酬同時改定の年です(診療報酬は2年・介護報酬は3年ごと

の改定なので同時改定は6年に1度です)。もれ伝わってくる情報では診療報酬はマイナス改定、介護報酬はプラス改定とのことですが、どちらも地域移行が重視されると思います。

吉祥寺病院の1年を振り返りますと

① A4病棟を4月より急性期治療病棟から救急病棟へ変更した。

② A2病棟を10月より男性病棟から男女混合病棟へ変更した。

③ 病棟内禁煙を10月より全病棟で施行した。

が、3大ニュースです。

新病棟を建てた頃より A4病棟は入退院の多い病棟でした。精神科一般病棟で始めましたが、実際に運営してみると診療報酬上の条件を次々クリアできたため、急性期治療病棟・救急病棟と変更していききました。救急病棟への変更には病棟の50%以上が個室との条件があったため、一昨年4床室を4つの個室に改装しました。また、入院患者の措置・医療保護入院の比率や時間外診療の数なども医局の協力を得てクリアしました。A4病棟を救急病棟へ変更できたため経済的には一息つくことができました。

新病棟完成以降、当院は女性患者さんの入院が増え、男性に比べ女性の新規入院者が1.5倍程多い状態が続いています。男性病棟では空床があるものの女性病棟は満床でお断りすることもありました。そのため男女混合病棟である B1 病棟や A4 病棟の女性比率を上げ対応していましたが、それでも間に合わず、男性病棟であった A2 病棟を男女混合病棟へ変更し、今までお断りしていた方々も積極的に対応していきたいと思っています。

健康増進を図るため禁煙については、一昨年より3年計画で進めています。一昨年の9月より A4 病棟は病棟内禁煙とし、他の5病棟は夜間病棟内禁煙としました。昨年10月からは全病棟において病棟内禁煙とし、今年10月には病院敷地内禁煙を目指しています。

最後に昨年11月うれしいニュースが入ってきました。

一昨年受審した病院機能評価で「患者・家族への退院支援を適切に行なっている」「必要な患者に継続した診療・ケアを実施している」という項目にお

いて、最高評価のS評価(秀でている)を頂きました。当院は今まで4回受賞していますが、平成13年10月初めて受賞した時「リハビリテーションメニューが整備され活用している」の項目で、最高点の5(極めて積極的に行なわれている)を頂いて以降2度目の最高評価でした。日本医療機能評価機構よ

り「病院機能評価データブック平成28年度」で当院の優れた取り組みを全国にアピールしたいとの申し出も頂き、職員各員の努力に感謝しています。

今後ともより良い病院を目指し皆で頑張っていきたいと願っていますので、宜しくお願い致します。

新年のご挨拶

看護部長 伊藤 久代

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

29年を振り返ってみると大きな変化のあった1年だったと思います。

一つ目は救急入院料の施設基準の取得です。A4病棟が急性期治療病棟から移行し、4月から救急入院病棟になりました。施設基準の一つである3か月以内の入院患者の割合も平均して約98%、病棟の稼働率、利用率も上がり順調に運営されてきています。病院全体の入院患者の約40%の患者が入院し、そのほとんどが3か月以内に退院していくため、個々の患者さんの病状を把握し多職種で関わっていきけるようなカンファレンスの充実、また、これまで実施してきた心理教育に加え、服薬アドヒアランスの向上と退院後の服薬継続のための服薬自己管理のグループ「たけのこ」も新たに実施しています。短期間の入院だからこそ治療やケアの充実がこれからも求められていくと思います。

二つ目は10月からの病棟内(建物内)禁煙の取り組みです。禁煙推進の取り組みは禁煙推進委員会を中心に3か年計画で進めているもので1年目は夜間禁煙、2年目は建物内の禁煙3年目に敷地内禁煙を目指している取り組みです。禁煙教育やアンケートなどで意見を吸い上げ、患者様、職員ともに意識を変えてもらうような取り組みをしながら進めてきたのですが、実際に棟内禁煙が始まると多少の混乱が生じた病棟もあり、職員が対応に追われるなどもありました。3か月が経過しやっと落ち着いてきたところです。

3つ目はA2病棟の男性閉鎖病棟から男女混合病棟への移行です。男性看護職員を多く配置していたので、女性看護職員が夜間勤務帯に1名は勤務できるように看護職員の配置換えを行いました。女性

患者さんを受け入れる病棟の準備としては男性っぽい病棟の雰囲気を変えるために部屋の内装や、デューザー(花)の準備、女性患者さんがスムーズに病棟になじむような雰囲気づくりを考えてくれ、スムーズに女性患者さんの移動が出来ました。男性患者さん女性患者さんともに男女混合化に伴う大きなトラブルはなく3か月が経過しています。

病院の機能や新たな取り組みが始まる時は職員にも大きな負荷がかかります。患者さんの回転が速くなっている中で職員はよく頑張ってもらったと感謝しています。変化を経験した事が次のエネルギーになっていけると良いと思っています。

2017年度の看護部目標に「チーム力を高め、患者さまに満足される看護ケアの実践」をあげています。そのためには患者さん一人ひとりの情報を共有して多職種でのカンファレンスを充実強化していかななくてはなりません。ケースカンファレンスを入院患者全例にという目標をあげています。救急病棟はほぼ全例実施されていますが、その他の病棟では6-7割というところです。入院一退院調整一地域への移行という継続した医療、看護を提供していくためにはいねいな治療やケアができるようなシステムを作っていく必要があります。病棟でのシステムを見直し、カンファレンス調整シートを活用して、さらに充実を図っていきましょう。

今年も変化の多い年になると思います。チーム力を発揮して患者さんに満足していただけるケアができるよう頑張っていきましょう。

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、まだ記憶に新しいと思いますが、昨年の漢字は「北」でした。当院の北側といえば、B棟北側には中庭があり、年の瀬になるとレクリエーション委員が装飾したイルミネーションが綺麗な風景を作ります。

そしてA棟北側には、災害時の緊急通路があります。当院の裏手は道が狭く、緊急自動車(特に大型の消防車等)は進入することができません。当院の敷地内にそれを設置し災害時に備えているというわけです。

ところで、当院は、調布市の災害時緊急医療救護所です。ご存知の方も多いと思いますが、平成23年に発生した東日本大震災では、傷病者が医療機関に集中する傾向が強かったことに倣って、各市区町村は災害拠点病院の近接地等に発災直後から緊急医療救護所を設置することになりました。

緊急医療救護所となった年(平成28年度)の病院目標に、「地域(調布市、調布医師会)と連携し救護所訓練を実施する」ことを掲げて、その年の5月に早速訓練を実施しました。法人として花水木の職員も合わせ37名出席してくれました。

その際私は、医療救護所で「何をしなければならないのか」を何も知らなかったことを実感しました。

災害発生時にまず組織化された指揮命令系統の確立が重要で、それが迅速な医療活動をおこなうための基礎となることを知りました。組織化された指揮命令系統があることで混乱を防ぐことができ、ひいては地域連携(相互協力)体制を整えることができるということなのです。

さて、組織化された救護所をつくるために、まずは一人でも多くの病院職員に災害医療についての知識を持ってもらうことから始めなければなりません。今年度はそれに重きを置いて、地域で開催される研修会や災害訓練の参加を呼び掛けるようにしています。

昨年の9月3日に多摩川河川敷で東京都と調布市の合同で大規模な総合防災訓練が行われ、当院からも院長をはじめ医師・看護師・作業療法士の有志が

参加しています。

さらに、10月29日調布市と調布市医師会が3病院合同防災訓練を開催(一般病院と精神科病院の合同訓練)し、院長をはじめ、医師・看護師・精神保健福祉士・事務員の有志が参加しました。訓練ばかりでなく、調布市医師会が主催するトリアージ研修会へ各職場から積極的に参加しているとのことでした。

また、昨年10月5日には、院内で防災研修会を開催し、北多摩南部医療圏地域災害医療ご担当の森川健太郎先生と、調布市医師会で災害医療ご担当の藤川正先生をお招きし、東京都と調布市の災害医療体制についてご講演いただきました。災害時に地域はどのような動きをしており、当院とどのように連携するのかを知ることで、我々は何ができるのかを考えることができます。

このように場の提供をすることは、職員個々が災害医療と向き合う機会となり、自己研鑽へと繋がっていくことでしょう。機が熟した頃合いを見計らって改めて当院で医療救護所訓練を開催したいと思っています。おそらく一昨年よりも職員一人一人が現場でさらに率先して動けるようになっているはずですから、今から楽しみです。

とはいえ、今年も災害とは縁のない病院であることを願っています。



新しい年が明けました。今年が皆様にとって素晴らしい年になりますように。

「深大寺道」からは大きく外れますが、お正月らしく(?)「七福神」のお一人(?)大黒天にお詣りにゆきましょう。実は、先走って前回ご紹介してしまいましたが… それは予告編だったことにして下さい。今日は、大黒天がおられる(上石原1丁目の)西光寺に寄り道です。

ところで、西光寺から南西(多摩川の方向)1km弱の所(上石原3丁目)には、調布市内に3か所ある精神科病院の一つ、青木病院(320床;1962年開院)があります。(青木病院も同じだったので想い出しましたが、30年余り前)私が入職した頃の吉祥寺病院の病室は畳敷きで、運用上の必要が生じると、何と布団の敷き方を変えろという奇策で 四床室をいつでも五床室に変えられる、今では想像出来ない魔法の(?)病室なのでした。それなら、治療効果も魔法のように上がっていたかつて…? それは、秘密です。

西光寺は、深大寺と同じ天台宗のお寺で、上石原村(現・野水)出身の近藤勇ゆかりのお寺です。

150年前、鳥羽・伏見の戦いに敗れた近藤は、その二か月後「甲陽鎮撫隊(こうようちんぶたい)」を組織して出撃し、勝沼の戦いでも惨敗して再び江戸へ敗走しましたが、勝沼で近藤ら旧幕軍を撃破した官軍を指揮したのは、祇園寺の「自由の松」の板垣退助でした。その頃官軍の本体を率いて江戸に進撃したのは今年大河ドラマになった人ですが、彼は水戸「弘道館」の名付け親・藤田東湖に出逢った時の印象を「清水に浴し候塩梅(あんばい)にて、心中一点の雲霞(うんか)なく、唯情浄なる心に相成り(≒まるで清水を浴びたような、心に少しも曇りのない清らかな心になって)…」と讃えています。西郷を「情浄なる心」にさせた東湖が、江戸の水戸藩邸で志半ばにして無念の死を遂げたのは、1855年、安政大地震の犠牲になったからです。そして(?)安政大地震が調布の入間川の水源を涸らしたため、深大寺用水が拓かれたのでした。

入間川といえば、水と水辺を好んだ武者小路実篤の屋敷(跡の公園)から入間川を1km近く下った河辺にも天台宗のお寺・明照院(みょうしょういん)

があり、調布七福神の一つ・弁財天が祀られています。明照院の弁財天は、(1662年に琵琶湖の)竹生島(ちくぶしま)から勧請された由緒正しい仏様です。弁財天は、本名(?)サラスヴァティーというインドの女神で、芸術、学問の神様ですが、そのお名前は「水を持つ者」という意味のサンスクリット語なので、水と川と豊饒の神でもあるそうです。

ん? ちょっと待って下さい。インド、水、神、といえば、深大寺の深沙大王も、でしたね。

今日は、深沙大王を始めとする水神様に導かれながら、深大寺城から深大寺道を歩いて、深大寺用水水分かれの辻に辿り着いたのでした。深大寺道の道筋は、ここから真っすぐ西堀方向にではなく、この辻を右に折れ、東八道路を渡って野崎八幡横の細道へと続きます。



そう言えば「どうしてこんなところに道が?」と、前から気にはなっていましたが、古道(跡)だったのですね。また、この道は歩行者専用道なのに、車道もあるかのような(右側が一段高い歩道?)不思議な造りです。この一段高い部分には、昔は水が流れていました。野崎交差点から「水分かれ」に向かって、八幡神社の横のこの道の脇を、深大寺用水が(用水自体は今では無くなっていますが)流れていたのです。

野崎八幡神社は、深大寺の寺中寺である池上院(ちじょういん)によって、1689年に「野崎村鎮守社」として創建されました。その縁起との関係は分かりませんが、神社ながらにして仏である薬師如来が祀られ、「団子薬師」と呼ばれました。毎年10月

8日夜に氏子が集って、眼などの病気に効くとされる「おめだま」と呼ばれる「薬師団子」を撒く、という江戸時代に始まった「だんごまき」が、何と今でも続けられています。(深大寺と共に満功上人が開いた)祇園寺の「目玉団子」と同様のものですね。薬師如来は、漢字で書くとちょっと厳格な印象も受けますが、英語では「ブッダ・オブ・ヒーリング」もしくは「メディシン・ブッダ」なので、本来の慈悲の精神はむしろこの英語表記の方が分かりやすいかも知れません。またこの仏は(東方浄瑠璃世界の主ではありますが)別名「大医王仏(だいいおうぶつ)」とも呼ばれるように、病苦を救う医薬の仏(英語でのメディシン・ブッダに当たりますね。)ですから、ご近所の当院にもその御利益を授けて下さっているのかも知れません。そもそも深大寺の総本山である比叡山延暦寺は、その御本尊に薬師如来を戴いていますし、深大寺にも薬師如来像が祀られています。

ところで野崎八幡神社の薬師如来は、明治維新後の廃仏毀釈によって八幡神社を追われてしまいます。その後どうなったかという、野崎村の村人の家々に(回り持ちで、隠れキリシタンよろしく)匿われる受難の日々を、何と60年近くも過ごされたのです。1925(大正14)年、ようやく元の八幡神社に戻ることが出来ました。

この薬師如来御不在の半世紀以上の間も、野崎村の村人たちは「八幡様の神事」と称して、ただの一度も欠かすことなく毎年「だんごまき」を続けたということです。野崎八幡神社にも(深大寺北町のよりも古い)1727年建立の小さな庚申塔が立っています。庚申塔の青面金剛は、左手に恐ろしげな弓矢や鉾を持っていますが、薬師如来は左手に「薬壺(やつこ)」を持っていて、その中には「阿伽陀(あかだ)」というあらゆる病を治す霊薬、いくら使っても減ることのない丸薬(の形の霊薬)が入っているとされています。そう、これが目玉団子、薬師団子の由来なのです。

深大寺用水の上流にあたる「玉川上水梶野新田分水」は、武蔵野日赤病院方面から井口八幡の西側を野崎の十字路へと流れて来たのですが、深大寺道は、野崎十字路で用水とは別れて右に折れ、用水の東側を並走するように、現在の武蔵境通りを北に向かいます。ところで、十字路から用水の上流(西側)約50mの所にある野崎交番の真向いには、吉祥寺病院とは(深沙大王か毘沙門天かの)深い御縁で

結ばれている巢立ち会の作業所「巢立ち風」があって、ここが巢立ち会の本部(?)の役割を担われています。そして勿論「巢立ち風」のメンバーには、当院の患者さんが大勢いらっしゃいます。

さて、野崎交差点から北へ歩きましょう。すると右手には、何やら見覚えのあるコンクリートの塔が見えて来ます。「もしやこれも?」と左方を見ると、バス停「配水場前」。ここは「東京都水道局上連雀浄水所」という配水場(=深井戸の水と浄水場からの河川水を併せて配水する所)なのでした。

配水場を後に山中交差点を過ぎてなお少しゆくと、左手に「庚申」という名の会社の入るビルが目に入ります。よく見ると、このビルの隅には自販機と並んで小さな庚申堂があります。この庚申堂は、井口八幡神社(1736年創建)の参道の入り口に立っていて、この中には1809年に立てられた庚申塔が収まっています。



更に北へ歩いて、「塚」の交差点に出たところで、左手(西側)をよく見て下さい。三叉路に挟まれて、小じんまりした鳥居が見えます。(近寄らないと分かり難いでしょうが)もっとよく見ると、「大鷲(おおとり)神社」との石碑が。これは、(前回深大寺五差路で思い出した)武者小路実篤の書です。この碑文によれば、もともとこの大鷲神社は「約三十間東方」、即ちこの場所(塚交差点)にあって、この辺りは江戸時代は「連雀二ツ塚」という深大寺道の宿場だったということです。宿場だったなんて、その面影は今となっては全く見てとれませんね。この地には「高さ三尺余り」の一里塚が、南北一つずつ(合わせて二つ)あったので、「二ツ塚」、「塚」と呼ばれるようになったそうです。

実篤さん張りに「この道を歩く」としましょう。「我を生かす道」かどうかはともかく、今日は、「深大寺道」という水に縁の深い道の道行きです。

塚の十字路から北へ300m程歩いたところに、数年前までは小さな冴えない橋(今では道幅が4、5倍にもなっているので、橋の姿には見えませんが…)がありました。その橋には「上連雀一之橋」という随分立派な名前が(名前負けしそうな、いや完璧に名前負けだったかも?)付いていました。となれば、(橋には見えないこの)橋の下の水路も単なる生活用水ではなく、何か名のある川なののでしょうか?どうもそうは見えず、どう見てもちょっと大きめの溝



(どぶ)でしかありません。

深大寺用水は今もう遺構だけで、水は流れてい

ませんので、この溝が(出発地の深大寺城趾の湿地を別にすれば、)今回の深大寺道の道行きで出逢う初めての水の流れです。この橋(に見えない橋)の下の溝は、調布にも縁が深い「仙川」だそうです。でもここの仙川は、自然の川にしては余りにも直線状の流れです。

実は仙川は、上流と下流とではその成り立ちが全く違うのです。仙川の下流部分は、吉祥寺病院の東方約2kmの三鷹市新川3丁目付近の湧水を水源とし、世田谷区鎌田で野川に合流する太古からの天然河川です。上仙川村の水源の池に水が湧く様が釜を伏せた形に譬えられ、湧水源が無数にあったことから「千釜」と呼ばれました。千釜を源とする川なので「千川」、それを転じて「仙川」となったそうです。

これに対して仙川上流部は、小金井村から境村にかけて雨の時などに現れた流れを基として、戦後(1948年頃)に開削された人工の水路が基です。それが(1964年に)下流部の仙川に繋げられ、仙川上流部となったものなのです。

仙川を渡って「上連雀通北」交差点を右に曲がると、700m程で(上連雀一之橋の上?からも見えた)90年近い歴史のある精神科病院であり、吉祥寺病院の約2倍のベッド数(640床)の大病院である井之頭病院があるのですが、深大寺道は、このまま真っすぐ北へ進みます。(写真:S)



学会発表の感想



2017/10/15 調布医師会学会

長期入院者への退院支援の取り組みについて

医療相談室室長 精神保健福祉士
花立 幸代

今年の春ごろに土井先生から、「調布で初の学会が開催される、当院から地域移行の演題を出してみないか」とのお話がありました。「調布で学会？」どんな内容なのだろうと思いながら、当院の強みである退院支援についての取り組みをアピールするチャンスと考え、地域移行推進委員のメンバーである高石師長、山本室長と相談しながら、長期入院者をどのように退院させているかをまずは、伝えることとしました。

発表は、当院の概要紹介、長期入院者の状況、退院支援が困難な理由、退院支援プログラムについて報告しました。会場から「退院できる評価はどのようにしているのか」という質問があり、ご参加頂いていた院長先生から具体的な事例を挙げてのお話をしていただきました。精神科の長期入院者への退院支援の取り組みを少しでも伝えられたのではないかと思います。

他の演題は、「小児生活習慣予防検診の取り組み」、「8020達成者からみる要因について」、「薬局薬剤師の地域の役割について」、「発達障がい児および気になる子の実態調査」等、多岐にわたる分野からの報告がありました。

調布市医師会は数年前からこの学会開催の準備を進めていたそうですが、シンポジウムでは「元気で一生この町で」と題して、在宅医療を支える現場の医師から報告とメッセージが届けられました。

普段は聞くことのない多分野の報告を聞き、今後の地域包括医療、在宅支援に向けて当院の治療や支援につながる部分はどこなのか、どのように連携していけるのかを考える機会にもなりました。来年は、是非皆さんも足を運んでみてください。

そして、来年、土井先生からささやかれるのはどの部署のどなたでしょうか…

2017/10/16 東京精神看護協会(新宿)

拒薬時の看護

A3病棟 看護師 高橋 優貴

こんにちは。高橋です。先日私は学会にて昨年行った研究をポスターにて発表させていただきました。気合を入れるためにこの日のためにワイシャツとネクタイを購入しました。とても緊張しましたが、緊張することが大好きなので嬉しかったです。

本気で研究に臨み、実績のある学会で発表できたことは大変貴重な体験となりました。

最後になりますが、研究に協力していただいたスタッフ、患者様に心より感謝申し上げます。

2017/10/25 東京精神科病院協会

再発防止を目指した退院前服薬教室の取り組み

A3病棟看護師長 河岸 光子

東精協学会ランチョンでの講演を依頼され「再発防止を目指した退院前服薬教室の取り組み」を講演することになった。

メンバーさんの声をたくさん届けることを意識し「薬は飲みたくない」「病気じゃない」「一生飲まな

くてはならないの」などを伝え、一つ一つ服薬教室の取り組みを話しながら紐解いていった。

ランチョンでの経験は初めてなので良い経験となった。

2017/10/25 東京精神科病院協会

多飲水患者へのアプローチ

～ガムを噛むことにより飲水量を減らせるか～

林 朋康

病棟で実際に困っている問題を研究テーマにしたいと思い、今回の研究のテーマにしました。発表当日は、大勢の方が発表を聴きにきて顶けました。「面白いテーマですね、どんな発表なのか興味があっ

た」「自分の病院でも試してみます」と声を掛けて頂き、研究を形に出来て本当に良かったと感じました。

2017/10/25 東京精神科病院協会

精神科病院に入院中の患者家族が抱える課題から見てきたこと

～家族のパーソナルネットワークに焦点を当てて～

B3病棟 看護師 山口 明莉

日頃私たちが患者の家族に求めやすいのは治療への協力性である。しかし本当にその視点だけでいいのか、そもそも家族は普段どんな生活をしているの

だろう…そんな疑問からこの研究は始まった。学会発表を通して会場に来てくださった人に、少しでも家族への理解が深まれば幸いである。

2017/11/2～11/3 日本精神科救急学会(石川県)

我が国における非自発入院に関する研究の動向と今後の課題

A4病棟 看護師 佐々木 愛

H29年11月2～3日に金沢で行われた日本精神科救急学会に参加しました。

当院の西山先生、他施設の職員と共同研究を進めており、今回は「我が国における非自発入院に関す

る研究の動向と今後の課題」の口演発表を行いました。

今の精神科急性期でトピックとなっていることが議論され実践に活かしていきたいと思いました。

2017/11/2 ~ 11/3 日本精神科救急学会(石川県)

あの子が帰ってくる!!

～入院日数短縮化の中で暴力を受けた家族の思いを知る～

A4病棟 看護師 藤原 俊二

2017年11月2～3日、石川県金沢市にて日本精神科救急学会が開催され、看護研究「あの子が帰ってくる!! ～入院日数短縮化の中で暴力を受けた家族の思いを知る～」の発表を行ってきました。A4 藤原、佐々木の共同研究で、発表は藤原が行いまし

た。

緊張の中での発表でしたが無事終え、発表後には質問をもらうなど、関心を持って聞いて頂けたようでした。その後、冬を迎える準備が進む秋の兼六園を散策した後帰京しました。

2017/11/11 ~ 11/12 第22回 SST学術集会(岩手県)

SSTリーダー初心者が当たる壁

～委員会でスキルアップ～

A4病棟 看護師 水津 貴之

今回の発表はSSTの在り方としてこれまでに無い切り口であったようで、SSTに関する新人育成において関心を集められたようでした。他院でも、「初心者はSSTが負担に感じて続かない」ことに悩み

を感じており、今後新人がSSTへの負担を減らして経験を積んでいく為に、長くSSTに関わっているスタッフ側からのアプローチが課題になっていくと考えられました。

2017/11/11 ~ 11/12 第22回 SST学術集会(岩手県)

研修にロールプレイを使って

～職種別、教育の視点から～

B1病棟 看護師 涉里 さやか

11月、粉雪交じりの岩手、盛岡の地にて、SST学術集会で発表をしてきました。

当院の職員の皆様にご協力いただいた、研修にロールプレイを活用してどうだったかのアンケートを集計し、分析、考察したものを発表してきました。

研究内容は沢山の方々から関心を寄せられ質問や今後の研究に参考になるご意見を頂きました。

今回の研究が無事に発表できたのも、当院のアンケートにご協力頂いた職員のみなさまのお陰です。そして、研究をまとめるにあたりご協力頂いたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

2017/12/3 第24回日本精神科看護学術集会(石川県)

保清行動に対して抵抗のある患者への関わり

B1病棟 看護師 伊東 良治

初めての北陸新幹線に揺られて金沢へ行き発表をしました。

精神症状により自発的に入浴することが困難になってしまった患者に、手順表を使用してセルフケア評価と面談を行い、入浴に対する意識がどのように変容するかという内容をポスター形式で発表しま

した。

緊張しましたが無事に終わることができ、参考になる質問や意見も色々と頂きました。

研究にご協力して頂いたスタッフの皆様、患者様に御礼申し上げます。

平成29年度病院忘年会について

総務課 白川 重久

去る12月7日(木)平成29年度吉祥寺病院忘年会開催いたしました。

会場は本年から、毎年お世話になっています吉祥寺第一ホテルさんで一番スペースの広い、8階天平の間で162名の参加を受け、午後6時40分より根岸事務長の開会の発声で幕を開けました。

塚本院長のご挨拶、原藤名誉院長の乾杯の発声に続き、学会での発表者へ功労、各部署での取り組みの発表、そしてお待ちかねの 大抽選会と進め、

ほど定刻通り土井副院長の閉会のお言葉で幕を閉じました。

今回は会場の変更もあり、食事関係も昨年と変わり食べ応えのある食事でした。

夜勤や当日所用で参加できなかった皆さん、次回は一緒に集いましょう。

ご協力いただきました幹事の方々及び病棟の皆さん、お力添えありがとうございました。

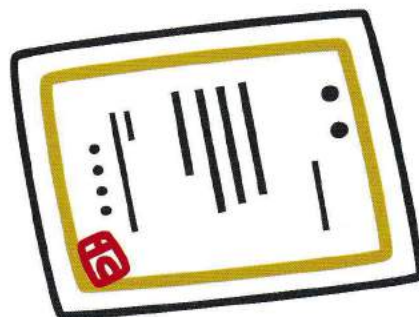


永年勤続優良職員表彰

去る11月1日、明治記念館に於いて東精協・日精協主催による永年勤続優良職員表彰が行われ、当院では10年表彰をA2病棟の中本 大輔さんとB1病棟の涉里 さやかさんが表彰されました。

今後の更なるご活躍をお願い致します。

付添で同席された根岸事務長、富田 怜子さんお疲れ様でした。



新しい仲間を
ご紹介！

新人紹介コーナー

YT

外来 看護助手

- ① 東京
- ② きれい
- ③ 努力を惜しまない
- ④ BTS

氏名

- ① 出身地
- ② 吉祥寺病院の第一印象
- ③ 私のモットー
- ④ 最近ハマっていること

平成29年度 吉祥寺病院行事予定

1月

行事関係

4日(木) 仕事始め
11日(木) レク 初詣
13日(土) ファミリーサポートセミナー
20日(土) 家族会

研修関係(予定)

看護研修(プリセプター⑥、プリセプティ⑨)
実践研修(チーム力を高める2-②)
看護研修(CVPPP アドバンスコース④)
看護研修(4年目 看護を語る)
実践研修(患者の思い③)
看護研修(オムツの使い方)
院内教育研修(行動制限最小化研修)

2月

行事関係

3日(土) 喫茶カトレア
10日(土) ファミリーサポートセミナー
17日(土) 家族会
24日(土) 家族教室

研修関係(予定)

看護研修(事例検討会⑤)
看護研修(プリセプター⑦合同)
看護研修(プリセプティ⑩)
看護研修(2年目③)
看護研修看護研究発表会)
院内教育研修(臨床セミナー)

3月

行事関係

10日(土) ファミリーサポートセミナー
17日(土) 家族会

研修関係(予定)

看護研修(プリセプターH30年度①)
院内教育研修(院外研修報告会)



クリームシチュー



1人分栄養成分

エネルギー 276kcal
タンパク 12.1 g
塩分 1.0 g

材料 (2人分)

鶏肉(こま) 100g
ポテト..... 2個(中)
人参 60g
玉ねぎ 1/2個(中)
マーガリン..... 少々
シチューのもと(市販) 32g
牛乳 20cc
ブロッコリー..... 1/3房
化学調味料..... 少々
塩..... 少々

作り方

- ① にんじんは乱切りに切る
- ② ポテトは乱切りにする
- ③ 玉ねぎは乱切りに切る
ブロッコリーは小房に分けて下ゆでしておく
- ④ 鍋にマーガリンを入れ、鶏肉を炒める
- ⑤ 鶏肉に火が通ったら、玉ねぎ・人参・
ポテトを加えて炒める
- ⑥ 野菜がかぶる位の水を入れ煮る
- ⑦ 野菜が煮えたら、火を止めシチューのもとを入れ
溶けたら常温にした牛乳を加える
- ⑧ 味を調え、ブロッコリーを加える

お正月料理で疲れた胃に優しい料理を...

シチューは身体を温め、免疫力をアップします。寒い冬には最適です

今回献立に使用したブロッコリーは、別名「はなやさい」と総称されています

成分ではビタミンA・C・E等ビタミンを多く含んでいて、風邪の流行る冬が旬です

免疫力を高め、風邪を予防し、老化予防にも効果があります
この時期に取りたい野菜です



Blank lined paper with horizontal ruling lines.

MEMO

外来担当表

	月	火	水	木	金	土
診察室 (1)	原藤	院長	原藤	小木	原藤	原藤
診察室 (2)	市川	市川	岡田	市川	市川	亀山
診察室 (3)	田澤	西岡	西岡 / 島本	田澤	西岡	西岡
診察室 (4)	森 / 森 (米)	岡田 / 中込	森 / 清野		森 / 島本	森
診察室 (5)	周東 / 押久保	山室	山室 / 中野	鵜殿 / 山室	周東 / 林	山室 / 中込
診察室 (6)	土井	土井 / 清野	西山 / 押久保	土井	岡田 / 土井	西山 / 林

病棟内全面禁煙実施中

受付時間

- 月～金 午前 9 時～11 時 (初診・再診)
午後 1 時～ 3 時 (初診)
- 土 午前 9 時～11 時
午後も入院は受け入れています



調布市深大寺北町 4-17-1

編集後記

患者さんと院庭に散歩へ行くと様々な植物が植えてあるのでほとんどの患者さんが興味を示し、喜んでくださいます。

春になったら桜も咲き、今よりもたくさんの花がまた新しく植えられると思うので、患者さんがよりいっそう喜んでくれると思い、楽しみです。(M.K)

あけましておめでとうございます。

新年1月の表紙写真は毎年、頭が痛くなります。病院敷地内に咲く季節の花々を探し回り、新たな発見も有りますが、毎度毎度表紙の写真には苦労します。

今年も じんだい を宜しくお祈りします。皆様の、幸多き一年をお祈り申し上げます。(S)